

平成27年度 学校自己評価システムシート (県立吹上秋桜高等学校)

目指す学校像	生徒の新たなチャレンジをとことん支援し、可能性を伸ばす生徒応援学校
--------	-----------------------------------

重点目標	1 「授業がいのち」を基盤とした基礎学力の定着 2 基本的生活習慣の確立と規範意識の涵養 3 キャリア教育により夢を実現させる進路指導 4 地域の関係機関と連携し、地域に根差し信頼される開かれた学校づくり
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	8名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					年度評価(2月8日現在)		
年度目標					年度評価(2月8日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策	
1	<ul style="list-style-type: none"> 意識が高く、学習活動に積極的な生徒もいる反面、学習活動に消極的で、学習内容がなかなか定着しない生徒も少なくない。学習習慣をつけさせる必要がある。 授業を休みがちで、未履修・未修得に至る生徒も多い。授業の大切さを自覚させ、出席を促す指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善による基礎学力の向上 躰きを把握し基礎学力の定着を図る個別指導 	<ul style="list-style-type: none"> ①「授業がいのち」の秋桜スタンダードを基本に授業改善を図る。 ②授業アンケートを実施する。 ③学級担任と教科担任の連携を密にし、生徒状況の把握に努める。 ①1・2年次で基礎力診断テストを実施する。 ②学力向上推進委員会を中心に、学習サポーターと連携し、学び直しのための自習(コスモステップ)を計画的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の学習に対する取組状況が良好であったか。 ②授業アンケートの実施率。 ③学級担任と教科担任の連携を密にし、生徒状況の把握に努める。 ③未履修者率が25%以下か。また、未修得者率が30%以下か。 ①基礎力診断テストにおけるD3判定の比率が減少し、義務教育内容の定着率が向上したか。 ②コスモステップの参加生徒が増えたか。また、参加生徒の成績が向上したか。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習取組状況は昨年度と同様だった(生徒アンケート)。 授業アンケート実施率は35.4% 未履修者率は28.7%と昨年比3.5ポイント減、未修得者率は27.8%で昨年とほぼ同じであった。(年間) D3の比率は1年次83.3%、2年次72.2%といずれも上昇した。 コスモステップは計画的に実施できたが、参加者は約40名(約10名減)で、後期の参加者は非常に少なかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 考査前の学習計画表配付とHR担任による指導を継続し、学習習慣の定着を図る。 授業アンケートの実施率を上げることで授業改善につなげる。また、評価方法や指導内容の工夫等により、生徒に確かな学力を身に付けさせる。 1年次「産業社会と人間」の中で、継続した取組を行い、生徒の学び直しを積極的に支援する。
2	<ul style="list-style-type: none"> 基本的生活習慣や規範意識が確立されていない生徒もいる。中学時代に不登校だった生徒の44%に改善が見られるものの、学校全体の欠席・遅刻・早退の数は依然多い。 生徒特別指導人数は、一昨年度比で54%減、昨年度比で25%減と向上しているがなお継続的に指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員による粘り強く積極的な生徒指導の充実 カウンセリングマインドに基づく教育相談の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ①立哨指導や校内外巡回指導を実施し、問題行動の防止に努める。 ②HR活動・学校行事等を通して集団でのルールを指導する。 ③日々の清掃や通学路清掃を通じて生徒の道徳意識を高める。 ①年次、生徒指導部、教育相談員、SC、SSWとの相互の連携を密にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①欠席・遅刻・早退、問題行動の件数が減少したか。 ②生徒の規範意識の向上が見られたか。 ①生徒・保護者からの教育相談に対応できたか。 ②退学者数・転学者数が減少したか。 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻・早退は25%減だったが、欠席は微増した(年間)。生徒特別指導件数は昨年度と同水準(年間)。 生徒の規範意識は昨年と同水準にとどまった(生徒アンケート)。 相談室利用者延べ数は生徒1562名、保護者21名(年間)。 転・退学者は計75名(2月末)で、前年度比18名増。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員による巡回指導を継続させるとともに、保護者とも連携を密にし、問題行動の未然防止に努める。 生徒がより利用しやすい相談室の体制を整えている。今後も教育相談活動の充実を目指す。 退学者の増加理由を現在分析している。分析結果を今後の指導に役立てる。
3	<ul style="list-style-type: none"> 進路決定率は2年連続で高い水準だったが、進路未定のまま卒業する生徒も少なくない。 進路意識が高い生徒もいる反面、卒業後のイメージを持ってない生徒も少なくない。進路意識を啓発するとともに、進路決定に必要な知識、資格、コミュニケーション能力をつけさせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 産社、総学、LHRを融合したキャリア教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ①進路指導部と年次の連携により、生徒に必要な指導・情報提供を適時に行い、進路意識を高める。 ②平日及び長期休業中に補習を計画的に実施する。 ③進路指導部とPTAの連携で保護者対象に進路に関する研修を行い、保護者の進路に対する理解を高める。 ①進路決定率が向上したか。また、就職率が県定時制高校の平均を上回ったか。 ②各年次生において進路希望未定者が減少したか。 ③補習が計画的に実施でき、基礎学力が向上したか。 ④保護者の進路意識が高まったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路未定者は半減。就職率は100%(定時制平均86%)(年度末)。 進路希望未定者は若干多かった。 3年次生は毎週水曜日及び長期休業中10日間、1・2年次生は長期休業中5日間の進路補習を実施した。 PTA主催で進路講演会、進路バス見学会を実施。参加者数は若干減少したが、保護者は積極的だった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の希望進路実現を図るため、入学年次から卒業年次まで計画的な進路指導行事を立案していく。 進路希望の実現のために、個人指導(面接指導を含む)や補習に組織的・継続的に取り組んでいく。 PTA主催の進路行事を継続させ、保護者の進路意識を高めるようにする。 	
4	<ul style="list-style-type: none"> HPへのアクセスは年間約7万件あり、メール連絡網システムによる情報提供も行っているが、加入率は伸ばす余地がある。 ボランティア活動、インターンシップ、専門学校等との連携事業が毎年行われ、貴重な体験となっている。 本校の教育活動に対する一層の理解を図るため、PTA、後援会、地域と積極的に連携する。 	<ul style="list-style-type: none"> 魅力ある時機を得たHPによる情報発信と広報活動 PTA、地域の教育機関と連携する事業の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ①HPに本校の活動を多く掲載する。また、メール連絡網システムを活用して情報発信する。 ②学校説明会、授業公開、中学校訪問を通して本校の特色を伝えていく。 ①保護者にPTA行事等への積極的な参加をはたらきかける。 ②ボランティア活動、インターンシップ、専門学校等との連携事業を活性化し、生徒の積極的な参加を働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ①HPの情報提供件数とアクセス数が増加したか。 ②メール連絡網システムの加入率が上がったか。また、情報提供を何件実施したか。 ③説明会等の参加人数が増加したか。 ①保護者のPTA行事等への参加者が増加したか。 ②ボランティア、インターンシップ、連携事業への参加者が増加しその感想が好評であったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年4月以降のHPアクセス数は9万超(年間)。また、部活動等のページの更新方法を改善した。 生徒及び保護者の加入数は392。情報提供数は昨年度より増加。 天候の影響もあり、説明会等の参加人数は昨年より若干減(年間)。 PTA行事等の参加者数は若干減少したが、五校バレーについては参加者も多く、幹事校の任を果たした。 ボランティア参加者は減少したが、連携事業参加者は増加した。生徒は貴重な経験をすることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> HP更新のマニュアルを作成した。適時に更新し、本校教育活動について広く理解していただく。 メール連絡網システムの利用を増やし、緊急連絡や学校行事等の情報提供を確実に行う。 広報等でPRを効果的に行って魅力を発信し、保護者のPTA活動への関心を高めるようにする。 地域との連携強化のため、通学路清掃等の活動を総学やLHRの時間を活用して実施したい。

学校関係者評価
実施日 平成28年2月17日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> ○習熟度別授業を取り入れたり、学び直して先生がわかりやすく教えてくれたりしているの、生徒が安心して授業に取り組んでいる。 ○コスモステップは素晴らしい取組である。参加者を増やす方策をぜひ検討してほしい。 ○未修得者率は目標を達成しているが、未履修者率についてはさらなる減少をめざしてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ○自転車のマナーなど、ルールを守るということを学校と警察がタイアップして指導しているからマナーアップが生徒に浸透してきているのではないかと。 ○先生方が一人一人の生徒を細かいところまで見ているので、不登校の生徒も立ち直り、自分に自信を持てるようになってきている。 ○保護者に対し、教育相談室の宣伝を定期的にする、利用しやすくなってよいと思う。 ○気持ちのよい挨拶ができると社会で役に立つ。挨拶運動などに取り組むとよいと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ○就職者が十数名増え、未定者が十数名減ったのは本校の進路指導の成果であると思う。 ○早めの学部・学科を決定すると進路実現をしやすくなるので、生徒に早くから進路意識を持たせるよう、これからも指導していただきたい。 ○よりよい進路実現のため、基礎学力の充実にいっそう取り組んでいただきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ○本校は地域の評判もだいぶ良くなってきている。 ○より良い学校づくりのため、学校と家庭の協力体制を深める必要があるのではないかと。 ○メール配信システムの加入率を上げて、適時に情報を流せたら、保護者が学校により関心をもってくれるのではないかと。 ○災害時に備え、地域が学校と協力した体制をつくっていきたいと思う。